

観光地における景観形成のための森林等の整備

【道路管理課・森林政策課】

1 必要性・独自性 【基本方針活用事業より】

- ・本県は、観光を軸とした地域経営の体制を整備することにより、県内観光業の「稼ぐ力」を高めて雇用や移住に結びつけ、世界と競争できる「観光大県づくり」を推進。
- ・本県が目指す世界水準の山岳高原リゾート構築のためには、本県の強みである豊かな森林資源を活かした観光地の魅力向上が不可欠。
- ・地域の景観に合致した間伐の実施、街路樹の整備等や、地域の特性・ニーズに合わせた、間伐、除伐、竹林整備等が必要。

2 目指す成果・成果目標 【基本方針活用事業より】

- ・街路樹等の整備を行う街路延長 概ね延べ40km程度/5年間
- ・地域の景観に合致した間伐等 概ね 110ha程度/5年間

【取組により期待される効果】

- ・観光地の魅力向上による観光利用者の満足度の向上
- ・街路樹剪定の実施にあたっては「街路樹剪定士」資格保有者による作業を要件とし、資格取得者の拡大を促すとともに、モデル事業として剪定技術に関する講習会など、街路樹管理技術向上の醸成を図る。

3 事業の概要

【観光地の景観整備（県単道路橋梁維持修繕費）】

- ・山岳高原リゾートを形成する観光地周辺等の街路において、景観形成のための街路樹の整備を実施する。
- ・また、当事業による街路樹剪定の実施にあたっては、「街路樹剪定士」資格保有者による作業とし資格取得者の拡大を促すとともに、モデル事業として剪定技術に関する講習会など街路樹管理技術向上の醸成を図る。

予算額:千円

事業内容	事業主体	H31年度 事業計画		補助率	予算額
・街路樹の剪定 ・街路の植樹等	県	街路樹整備	延べ10km	—	20,000

【観光地等魅力向上森林景観整備事業】

- ・豊かな森林資源を活かした観光地の魅力向上を図るため、地域の景観に合致した森林整備等を推進し、観光地等の魅力向上を図る。

予算額:千円



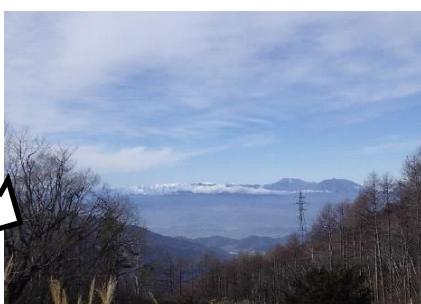



事業内容	事業主体	H31年度 事業計画		補助率	予算額
・景観整備 ・ビューポイントの樹木の伐採 ・巨樹・古木などの保存 ・高速道路沿線の松くい虫被害木の景観対策	市町村	地域の景観に合致した間伐等	29ha	9/10	35,000

4 見える化に向けた取組、取組の継続性、他地域への波及効果等

- ・ 国営アルプスあづみの公園や白樺湖など観光地周辺の街路等をはじめ、ビューポイント整備に資する街路樹整備や景観向上のための森林整備を実施し、観光地の魅力向上に繋げる。
- ・ 景観整備については、地域において必要とされる箇所を優先して整備することで、森林の景観整備への意識向上を図る。
- ・ 高速道路沿線の松くい虫被害による枯損木を伐採することで、自然豊かな信州の景観づくりを推進する。
- ・ 事業の実施箇所では森林づくり県民税を活用している旨の看板等の設置を行い、森林づくり県民税の周知及び理解の促進にも取り組む。

【参考】 事業イメージ

<p>街路樹整備</p>	<p>全国都市緑化信州フェアの会場入口 に街路樹を植樹 安曇野市 (一) 豊科大天井岳線</p>
<p>諏訪湖周辺の街路樹を整備 諏訪市 (主) 諏訪辰野線</p>	
	

<p>景観整備</p>		
<p>眺望をよくするためのビューポイントの整備</p>		
		
	<p>【H30実施事例】</p>	
	<p>山ノ内町志賀高原</p>	
<p>巨樹・古木の保存活動</p>		<p>高速道路沿いの景観整備</p>
		
		<p>景観を損ねている松くい虫被害による枯損木</p>
		<p>長野自動車道</p>

森林セラピー推進支援事業（施設整備）

【信州の木活用課】

1 必要性・独自性 【基本方針活用事業より】

- ・森林を活用し農林業・観光・医療の各分野が連携した取組である「森林セラピー」は、新たな地域活性化策として期待。
- ・本県の強みである基地数最多の「森林セラピー県」として、県内及び全国からの森林セラピー体験者に対し、安全に利用できるセラピー基地内のフィールド整備・施設整備が必要。

2 目指す成果・成果目標 【基本方針活用事業より】

- ・森林セラピー基地の整備 全10箇所/5年間

【取組により期待される効果】

- ・セラピー基地利用者の増加
- ・セラピー参加者の健康維持・増進、森林への興味促進

3 事業の概要

- ・本県の森林セラピーの利用を促進するとともに、関連する産業（観光、健康、環境、産業）との連携を強化し、地域資源として積極的に活用していくため、セラピー基地等の魅力向上を図るとともに、県内外へ積極的にPRを行い、利用者の増加、満足度の向上を図る。

予算額:千円

事業内容	事業主体	H31年度 事業計画		補助率	予算額
・修景伐採 ・施設補修	市町村	森林セラピー基地整備	9箇所	9/10 1/2	35,844

4 見える化に向けた取組、取組の継続性、他地域への波及効果等

- ・利用者へ森林の持つ魅力の波及と基地運営の継続を図るとともに、利用者増加による集客効果を他地域へ波及し、地域資源の掘り起しへ繋げる。

【参考】 事業イメージ

- ・効果ある森林セラピー体験のための歩道整備



- ・安心して利用できる施設への補修



森林づくり推進支援金

【森林政策課】

1 必要性・独自性 【基本方針活用事業より】

- ・従来の施策では対象にならない喫緊の課題に対応できる交付金は、市町村の評価が高い。
- ・広い県土を有する本県においては、各地域の様々な課題に応じた森林整備等の取組が不可欠であることから、市町村がきめ細やかな対応を行うための一定の財源が必要。
- ・森林を多く抱える山間部の町村は、総じて人口が少なく財政規模も小さいことから、森林面積等に応じた配分を行う財政調整的な性格を有する支援は不可欠。

2 目指す成果・成果目標 【基本方針活用事業より】

- ・全ての市町村で地域固有の課題の解決の取組が行われること
(毎年度、目標・指標の設定、成果の把握・検証は市町村が実施)

【取組により期待される効果】

- ・身近な課題解決への取組による森林への関心の向上
- ・身近な里山などの森林整備や木材利用が図られる

3 事業の概要

- ・森林づくり指針に掲げる方針を踏まえつつ、森林に関する各地域の様々な課題解決のための国庫補助等の既存施策の対象とならない市町村の取組を支援し、事業実施後は市町村において成果の把握・検証を行う。

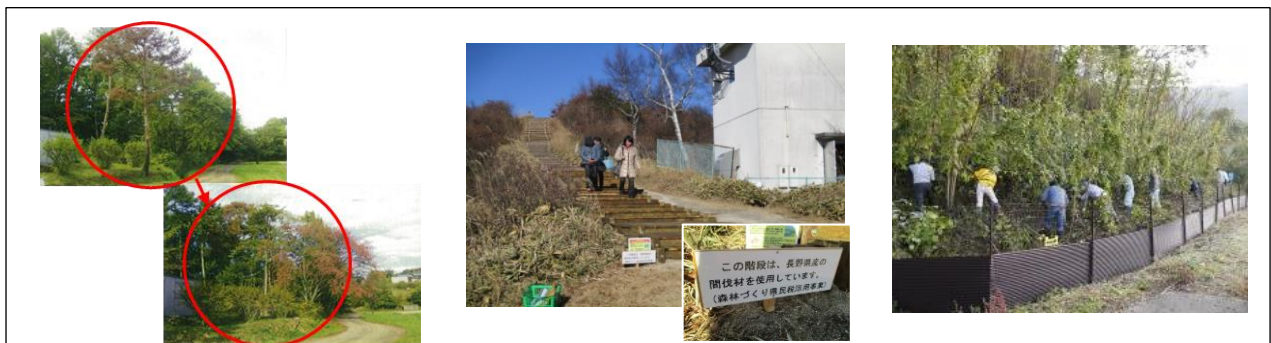
予算額:千円

事業内容	事業主体	H31年度 事業計画		補助率	予算額
市町村が行う身近な課題解決のための森林づくりの取組	市町村	実施市町村数	77市町村	定額	90,000

4 見える化に向けた取組、取組の継続性、他地域への波及効果等

- ・地域の実情に応じた様々な取組が目に見える形で行われることにより、地域住民の森林に対する理解の浸透と森林づくりへの機運の醸成を図る。
- ・毎年度の事業の実施内容や実施後の成果の検証結果について、市町村がホームページ等で公表することにより、身近な課題解決に向けた取組について周知を図る。

【参考】 事業イメージ



松くい虫被害木除去

県産材を使用した階段設置

緩衝帯整備

森林税の普及啓発、評価・検証

【森林政策課・信州の木活用課・県産材利用推進室・森林づくり推進課】

1 必要性・独自性

【基本方針活用事業より】

- ・ 県民アンケートでは、森林税の名称だけは知っていると回答した人が68.4%となっている一方で、使い道がよくわからないと回答した人が73.5%に及ぶことから、用途の認知度を向上させるため、より積極的かつ効果的な広報に努めることが必要。
- ・ 特に若年層での理解が広がっていないことから、SNS等を活用した広報の実施※などにより、森林の多面的な利用等の活動への参加を促進することが必要。
- ・ 温暖化対策等の観点から、企業の森林づくりへの参画が進んでおり(全国第2位)、引き続き、多様な主体の参画を進めることが必要。
- ・ チェック機能を強化しつつ、引き続き県民会議、地域会議による森林税を活用した事業の評価・検証を実施するとともに、県民目線による制度や事業の見直しの提案等が不可欠。

2 目指す成果・成果目標

【基本方針活用事業より】

- ・ 森林税の用途の認知度 30%
- ・ 企業・団体等と地域との協定の締結25件/5年

【取組により期待される効果】

- ・ 森林税活用事業を活用した取組の増加

3 事業の概要

【みんなで支える森林づくり推進事業】

- ・ 森林の役割や森林づくりの重要性等について、県民の理解を深め、多様な主体による森林づくりを促進するため広報・普及啓発活動を実施する。
- ・ また、県民会議、地域会議による税活用事業の評価・検証を行う。

予算額:千円

事業内容	事業主体	H31年度 事業計画		補助率	予算額
・ 広報媒体の作成・発信 ・ 県民協働による広報の実施 ・ 子どもサミットの開催 ・ 県民会議等開催	県	森林税の用途の認知度	30%	-	10,000

【森林の里親促進事業】

- ・ 里山や山村集落へ県が仲立ちとなり企業等の社会貢献活動や福利厚生活動を誘導し、森林整備と交流を通じた地域活性化を図る。

予算額:千円

事業内容	事業主体	H31年度 事業計画		補助率	予算額
・ 新規参入のための企業訪問 ・ 契約企業のフォローアップ ・ 森林の里親講座	県	企業等の契約件数	5件	-	1,002

【地球温暖化防止木材利用普及啓発事業】

- ・ 県産材住宅や事務所・店舗を木質化した企業等に対し、木材のCO₂固定量を認証し、地球温暖化防止や環境への関心を高めるとともに、県産材の消費拡大を図る。

予算額:千円

事業内容	事業主体	H31年度 事業計画		補助率	予算額
・CO2固定認証	県	CO2固定認証量	500t-CO2	-	567

【地球温暖化防止吸収源対策推進事業】

- ・企業等との連携により整備された森林のCO2吸収量を認証し、企業等のCSR活動の「見える化」をすることで、地球温暖化防止につながる森林整備を推進する。

予算額:千円

事業内容	事業主体	H31年度 事業計画		補助率	予算額
・CO2森林吸収量認証	県	CO2吸収認証量	4,000t-CO2	-	375

4 見える化に向けた取組、取組の継続性、他地域への波及効果等

- ・効果的、効率的な広報・普及啓発、企業との連携等を図ることで、森林や森林税に対する理解の浸透を図る。
- ・また、税活用事業の評価・検証を行い、森林税の効果的な運用を図るとともに、県内各地のモデル的な取組を県内全域に波及する。

【参考】 事業イメージ

<みんなで支える森林づくり推進事業>



リーフレット・動画等でPR



若者や女性との意見交換



県民会議の開催

<森林(もり)の里親促進事業>



企業と地域との連携による森林づくり

<地球温暖化防止事業>

事務所や店舗等での県産材の使用量に応じた二酸化炭素固定量を定量的に評価し認証書を発行することで、企業の社会貢献活動に利用していただきます。



森林の里親契約に基づく取組により間伐された森林のCO2吸収量を県が認証し、企業等のCSR活動の「見える化」を行っています。



森に力を
Power to the forest.
地球に未来を
Future to the earth.

平成30年度森林税活用事業 実施状況 及び 令和元年(平成31年)度実施計画

1 「防災・減災」及び「住民等による利活用」のための里山等の整備

防災・減災の観点での里山の森林整備や河畔林の整備、里山整備利用地域制度を活用した住民協働による里山の整備の推進

1) みんなで支える里山整備事業 (H30 ① P10, H31 P8)

整備の遅れている集落周辺の里山において、間伐等の森林整備を行う経費を助成
(補助率 9/10 以内)

単位：ha：千円

市町村	平成30年度実績		令和元年度実施要望 (R1.7月末現在)		備 考
	間伐面積等	補助金額	間伐面積等	対前年度比	
長野市	147.59 2,267 m ³	40,682 7,934	98.45	66%	下段：搬出支援
須坂市	43.35	12,381	25.00	57%	
千曲市	18.26	4,733	32.70	179%	
小布施町	0.00	0	0.00	—	
坂城町	11.21	3,249	8.00	71%	
高山村	39.80	11,538	24.70	62%	
信濃町	9.42 202 m ³	2,343 707	1.74	18%	下段：搬出支援
飯綱町	8.45 733 m ³	2,433 2,565	0.00	—	下段：搬出支援
小川村	7.24	1,962	24.88	343%	
計	285.32 3,202 m ³	79,321 11,206	215.47	75%	

(二段書きは上段：間伐面積、下段：搬出支援等)

2) 里山整備方針作成事業 (H30 ② P11, H31 P7)

作成状況

市町村	旧市町村	平成 30 年度実績				令和元年以降方針作成取り組み予定		
		方針作成			面積 (ha)		補助／独自	備考
		実施／未実施	補助／独自	補助金 (千円)	現市町村	旧市町村		
長野市	長野市	未実施	—	788	0.00	0.00	R1 独自	面積、補助金額等未定
	大岡村	未実施	—			0.00	R1 独自	
	豊野村	未実施	—			0.00	R2 独自	
	戸隠村	未実施	—			0.00	R2 独自	
	鬼無里村	未実施	—			0.00	R2 独自	
	信州新町	未実施	—			0.00	R2 独自	
	中条村	未実施	—			0.00	R1 独自	
須坂市	—	実施	独自	88.75	88.75	R1 補助追加		
千曲市	更埴市	実施	補助	788	56.55	43.97	R1 独自追加	
	上山田町	実施	補助			0.00	R1 独自追加	
	戸倉町	実施	補助			12.58	R1 独自追加	
坂城町	—	未実施	—	0.00	0.00	R1 補助		
小布施町	—	未実施	—	0.00	0.00	R2 独自		
高山村	—	実施	独自	19.68	19.68	R1 独自		
信濃町	—	未実施	—	0.00	0.00	R1 補助		
小川村	—	実施	独自	16.04	16.04	R1 独自		
飯綱町	牟礼村	未実施	—	0.00	0.00	R2 独自		
	三水村	未実施	—			R2 独自		
計				788	181.02	181.02		

3) 県民協働による里山の整備・利用 (H30 ④ P13, H31 P10)

里山地域認定状況

認定日	市町村名	地域名	中心となる集落名	面積 (ha)	活動を推進する主体	
					名称	構成員の区分及び人数
H30. 9. 28	須坂市	離山	豊丘	3	離山を守る会	地域住民、地域団体 23 名
H30. 10. 25 (R1. 5. 30)	長野市	七二会地区	坪根 (滝谷)	108	NPO 法人信州フォレストワーク	地域住民、団体の活動に賛同する者達 50 名
H30. 12. 11	須坂市	臥竜公園地区	小山、南原、北原	16	臥竜公園里山整備利用推進協議会	地元自治体、保存会等 13 団体
H30. 12. 11	須坂市	塩野地区	塩野	63	塩野地区利用推進協議会	地域住民代表、森林組合 11 名
H31. 3. 5	長野市	浅川地区	台ヶ窪	112	あさかわの里山と森を守る会	地域住民等 39 名
H31. 3. 29	坂城町	上平地区	上平	446	上平親林協働整備協議会	区、林業事業体、地域団体、企業等 11 名
H31. 3. 29	長野市	戸隠豊岡地区	豊丘	58	戸隠森林整備クラブ	森林所有者、地域住民、協力者等
R1. 6. 28	信濃町	柏原上ノ原	上ノ原	21	日中友好の森林づくり推進協議会	森林所有者、森林組合、団体等 10 名
R1. 7. 19	長野市	七二会 2 地区	論地	5	七二会里山整備利用推進協議会	地域住民 13 名
計		9 地区		832		

里山整備利用地域活動推進事業・里山資源利活用推進事業

事業主体	平成30年度実績(A)			令和元年度計画(B)			前年比(B/A)(%)
	里山整備 利用地域 活動推進	里山資源 利活用推 進	計 (千円)	里山整備 利用地域 活動推進	里山資源 利活用推 進	計 (千円)	
	補助金額	補助金額		補助金額	補助金額		
離山を守る会	890	574	1,464	1,061		1,061	72.5
NPO 信州フォレストワーク	180	600	780	120		120	15.4
臥竜公園里山整備利用 推進協議会	428		428	1,759		1,759	411.0
塩野地区利用推進協議 会	312		312	100		100	32.1
あさかわの里山と森を 守る会				500		500	—
上平親林協働整備協議 会				570		570	—
戸隠森林整備クラブ				450	1,125	1,575	—
日中友好の森林づくり 推進協議会				300		300	—
七二会里山整備利用推 進協議会						未定	—
計	1,810	1,174	2,984	4,860	1,125	5,985	200.6

4) 地域で進める里山集約化事業 (H30 ⑤ P14, H31 P12)

里山に接する集落や森林組合等が主体となって、森林所有者に呼びかけ、所有界の明確化や整備の同意取得や境界確認の活動を支援 (交付金額 14,000~30,000 円/ha)

単位: ha 千円

市町村名	平成30年度実績				令和元年度見込み			
	団地 数	面積	所有 者数	補助金額	団地 数	面積	所有 者数	補助金額
長野市	1	10.0	12	150.0	1	10.0	15	145.0
計	1	10.0	12	150.0	1	10.0	15	145.0

2 自立・持続的な森林管理のための間伐材等の利活用

1) 地消地産による木の香る暮らしづくり事業 (H30 ⑥ P15 , H31 P13)

(1) 「子どもの居場所」木質空間事業

親子が共に触れ合う「子どもの居場所」において、地域の木を使うことが森林整備に繋がることへの理解を深めるとともに、木の香る暮らしの良さを認識することで、将来における県産材利用の意識の醸成と地消地産による森林資源の循環利用を図る。

平成 30 年度実績

(単位：円)

区分	事業主体	事業内容等	補助金
木造・木質化	(有)寺島工務店	キッズスペースの内装木質化	439,000
	(株)GREEN WAVE	飲食店のキッズコーナーの内装木質化	305,000
	(株)熊木住建	複合商業モール内木育ひろばの内装木質化	2,310,185
	(株)MACEARTH 匂花咲く黒姫高原	レストラン一部の木育ひろばの内装木質化	2,310,185
	小計		
木の調度品・おもちゃ設置	(有)寺島工務店	キッズスペース、保育園等への玩具・遊具・調度品の導入	321,000
	(株)GREEN WAVE		258,000
	(株)熊木住建		347,222
	(社福)ハーモニー福祉会		336,975
	NPO 法人 ながのこどもの城 いきいきプロジェクト		375,000
	(社福)恩賜財団済生会支部長野 県済生会 済生会長野保育園		252,230
	(社福)仁慈協会 上高井保育園		264,867
	須坂市教育委員会 (14 施設)		1,414,202
	芹田東部保育園		162,000
	小計		3,731,496
合計			9,095,866



(株)熊木住建(木質化・玩具設置)



ながのこどもの城(遊具設置)

令和元年度見込み(1次募集分)

(単位：円)

区分	事業主体	事業内容等	補助金
木造・木質化	(株)ME リゾート黒姫 黒姫高原コスモス園・ダリア園	木育広場の設置	2,299,000
	小 計		2,299,000
木の調度品・おもちゃ設置	社会福祉法人睦会	キッズスペース、保育園等への玩具・遊具・調度品の導入	328,500
	学校法人いづな学園		364,500
	学校法人黒木学園		229,000
	社会福祉法人はなぞの会		375,000
	宗教法人善敬寺		243,000
	須坂市教育委員会(9施設)		582,606
	長野トヨタ自動車株式会社		157,500
	小 計		2,280,106
合 計		4,579,106	

(2) 木工体験支援事業

平成30年度実績

事業主体	活動内容	補助金(円)
坂城町	小学生による椅子、コースターづくり等	300,000
小布施町	栗ヶ丘小学校親子によるベンチ作り	340,000
小川村	間伐材を利用した木製品づくり	450,000
長野森林組合(長野市)	地元の木材を使ったイス、ベンチづくり	300,000
計		1,390,000

令和元年度見込み

事業主体	活動内容	補助金(円)
千曲市	小学生による木製ベンチ等の作成	500,000
坂城町	村上小児童による箸、コースターづくり等	100,000
	南条小児童による椅子づくり等	206,000
小布施町	栗ヶ丘小児童に大工さんによる木工教室	340,000
高山村	親子によるベンチづくり等	150,000
小川村	小学生によるプランターカバーづくり等	500,000
長野森林組合(長野市)	戸隠小児童によるイスづくり等	303,000
長野市	松ヶ丘小裏山クラブによるクラフト	90,000
	昭和小5年生による学校林活動	60,000
	親子によるイスづくり	120,000
計		2,369,000

2) 薪によるエネルギーの地産地産事業 (H30 ⑦ P16 , H31 P15)

身近な里山資源である薪を継続的に地域内で利用する仕組みを構築するための需要調査や地域住民に対する講習会の開催等を支援。

(単位：件、円、%)

区 分	平成 30 年度実績 (A)	令和元年度計画 (B)
事業主体	NPO法人まめつてえ鬼無里	—
件数	1	—
補助金	1,362	—

3) 松くい虫被害木利活用事業 (H30 ⑧ P17 , H31 P16)

山林に放置された、松くい虫被害木を有効活用し、地域が主体となって行う松くい虫被害木駆除の更なる取組を推進するため、松くい虫被害木を木質バイオマス発電の燃料（チップ）に資源化して利活用する取組等を支援する。

(単位：件、円、%)

区 分	平成 30 年度実績 (A)	令和元年度計画 (B)
事業主体	坂城町	—
件数	1	—
補助金	1,800	—

4 多様な県民ニーズに応えるための森林の利活用

1) 学校林等利活用促進事業 (H30 ⑪ P20 , H31 P20)

学校林の活用を推進するため、手入れが放置され利用困難になっている学校林の整備を支援。
学校林を活用した体験活動のための施機材の配布や講師の派遣。

平成 30 年度実績 なし

令和元年度見込み

(1) 補助事業 (単位：円)

市町村	事業主体	事業内容	補助金
坂城町	坂城町	坂城小学校学有林の整備	360,000
小川村	小川村	小川小学校学有林の整備	1,260,000
計			1,620,000

(2) 活動支援事業(資機材の配布・講師の派遣) (単位：円)

市町村	対象校	事業内容	事業費
長野市	いいづな学園グリーンヒルズ小・中学校	鎌、鋸、ヘルメット 等の機材の配布 講師の派遣	283,016
長野市	市立芋井小学校		190,127
小川村	村立小川小学校		152,388
計			625,531

2) 観光地における景観形成のための森林等の整備 (H30 ⑬ P22 , H31 P23)

観光地の魅力向上を図るため、地域の景観に合致した森林整備等を推進

平成 30 年度実績 (単位：円)

事業主体	事業実施個所	補助金
須坂市	臥龍公園	340,000
計 1 件		340,000

令和年度見込み (単位：円)

事業主体	事業実施個所	補助金
須坂市	峰の原高原	1,188,000
千曲市	科野の里歴史公園	1,980,000
高山村	松川溪谷	1,989,000
計		5,157,000

3) 森林セラピー推進支援事業 (H30 ⑩ P19 , H31 P25)

森林の持つ癒しの効果、病気の予防効果が科学的に認められた森林セラピー利用促進のため、森林セラピー基地等の森林保全整備や施設整備を支援。

(単位：千円、%)

区分	平成 30 年度実績 (A)	令和元年度計画 (B)	前年比 (B/A)
実施市町村	信濃町	信濃町	
補助金	629	1,527	243%

5 市町村に対する財政調整的視点での支援

1) 森林づくり推進支援金 (H30 ⑭ P23 , H31 P26)

地域固有の課題に対応した森林整備の推進や、間伐材の利用促進などを行うため市町村の取組みを支援 (10/10 以内但し、施設整備費は 2/3 以内)

(1) 事業項目別実施概況

単位：千円

事業項目	平成 30 年度実績見込み			
	事業内容	件数	実施市町村	支援金額
みんなの暮らしを守る森林づくり	病害虫・松くい虫防除対策 景観整備	7	長野市、須坂市、千曲市、坂城町、小布施町、高山村	5,514
木を活かした力強い産業づくり	公共施設等への木製品・木製遊具等の導入	5	須坂市、千曲市、小布施町、信濃町、小川村	2,176
森林を支える豊かな地域づくり	緩衝帯整備 森林づくり活動等支援	8	長野市、千曲市、小布施町、高山村、飯綱町	5,657
計		20		13,347

(2) 市町村別事業実施状況

資料 4-2 参照

6 森林づくりの理解を深める普及啓発及び森林税の評価・検証

1) 森林の里親促進事業 (H30 ⑩ P25 , H31 P27)

森林の整備と利用に意欲のある集落等が、企業の理解と協力を得て行う新たな森林づくりの仕組みの構築に努めるとともに、森林所有者等による森林施業が適時適切に行われるよう、その実施に不可欠な地域の活動にも支援している。

(1) 市町村別契約 件数 24件 (うち、契約満了6件) H31.3.31 現在

市町村	契約件数 () は契約満了	里親 (企業) () は契約満了
長野市	8 (1)	信越放送(株)、(社)長野県自動車整備振興会長野支部、(新光電気労働組合)、(株)八十二銀行、北信地区富士通グループ、小賀坂スキー製作所(株)、KDDI(株)、長野日本無線(株)
須坂市	1	グローブライド(株)
千曲市	2	太洋基礎工業(株)、NPO 法人千曲の森
坂城町	1	長野県資源循環保全協会青年部会
信濃町	7 (4)	(全日本空輸(株)、駒澤大学高等学校、TDK ラムダ(株)、(株)日新航空サービス外)、(株)ヤクルト本社東支店)、(成城中学校)、日本通運健康保険組合
飯綱町	4 (1)	(長野朝日放送(株)、長野トヨタ自動車(株)、新光電気労働組合、北信商建(株)
小川村	1	生活協同組合コープながの
計	24 (6)	

(2) 平成 30 年度契約状況

契約更新：4件 (自動更新を除く)



森林学習 (須坂市 仁礼会・グローブライド)



森林整備 (飯綱町・北信商建)

(3) 令和元年度契約見込み 新規契約見込み 3件(信濃町2件、千曲市1件)
更新予定 6件 (自動更新を除く)

平成30年度森林づくり県民税活用事業 執行状況

担当部局: 建設部 河川課

事業名: 河畔林整備事業 (H30 ③ P12, H31 P8)

市町村	事業主体	箇所名	事業内容	事業期間	事業費 (円)	補助事業の場合に記載			備 考
						補助金額 (円)	交付決定日	確定日	
16 千曲市	県	荏沢川	河畔林整備	H30.4~H31.3	3,002,400	—	—	—	
17 上水内郡小川村	県	瀬戸川	河畔林整備	H30.4~H31.3	4,968,000	—	—	—	
					7,970,400				
36 埴科郡坂城町	市町村	名沢川	河畔林整備	H30.4~H31.3	1,494,450	1,345,000	H30.12.28	H31.3	
37 須坂市	市町村	山崎川	河畔林整備	H30.4~H31.3	4,980,000	4,482,000	H30.12.28	H31.3	
38 長野市	市町村	嘉兎加川	河畔林整備	H30.4~H31.3	2,000,000	1,800,000	H30.9.12	H31.3	
					8,474,450	7,627,000			
					16,444,850	7,627,000			

その他特記事項

※記入に当たっては事業ごとに別葉としてください。

※行が足りない場合は適宜追加してください。

※交付決定前、起工前等であっても、計画が具体化しているものについては記載してください。

※上表に記載する段階にない場合や、記載になじまない場合は、「その他特記事項」欄に執行状況等を記載してください。

平成30年度森林づくり県民税活用事業 実施箇所一覧

担当部局: 県民文化部次世代サポート課

事業名: 自然保育活動フィールド等整備事業 (H30 ⑪ P20, H31 P20)

市町村	事業主体	箇所名	事業内容	事業期間	事業費 (円)	補助事業の場合に記載			備 考
						補助金額 (円)	交付決定日	確定日	
3 長野市	(学)いづな学園	こどもの森幼稚園	フィールド整備	H30.11	627,968	565,171	H30.10.17	H30.12.25	内示日 H30.9.18
6 長野市	(社福)守幼会	雷鳥保育園	フィールド整備	H30.9~12	993,600	894,240	H30.10.17	H31.1.4	内示日 H30.9.18
10 小川村	小川村	小川村保育園	フィールド整備	H30.11	132,840	119,556	H30.10.17	H31.2.1	内示日 H30.9.18
11									
12									
13									
14									
15									
					5,734,328	4,622,895			

その他特記事項

※記入に当たっては事業ごとに別葉としてください。
 ※行が足りない場合は適宜追加してください。
 ※既存の資料をもって代えられる場合は、添付のうえ「別紙のとおり」としてください。

平成30年度森林づくり県民税活用事業 執行状況

担当部局: 建設部 道路管理課

事業名: 観光地の景観整備(県単道路橋梁維持修繕費) (H30 ⑬ P22, H31 P23)

	市町村	事業主体	箇所名	事業内容	事業期間	事業費 (円)	補助事業の場合に記載			備 考
							補助金額 (円)	交付決定日	確定日	
6	長野市	長野建設事務所	県庁前～長野大通り	街路樹剪定	H30.7-11	3,000,000	-	-	-	-
7										
8										
9										
10										
11										
12										
13										
14										
15										

その他特記事項

※記入に当たっては事業ごとに別葉としてください。

※行が足りない場合は適宜追加してください。

※交付決定前、起工前等であっても、計画が具体化しているものについては記載してください。

※上表に記載する段階にない場合や、記載になじまない場合は、「その他特記事項」欄に執行状況等を記載してください。

平成30年度 森林づくり推進支援金 事業実績一覧表

長野 地域振興局

市町村名	No.	事業 項目 番号	事業 名	事業費 (千円)	負担内訳		備考
					支援金 (千円)	その他 (千円)	
長野市	1	1	松くい虫防除等病虫害防除事業	2,712	2,667	45	
	2	1	緩衝帯整備事業	3,675	3,500	175	
	3	1	広葉樹林造成調査研究事業	1,576	300	1,276	
	計		3 件	7,963	6,467	1,496	
須坂市	1	1	病虫害防除の取組	1,123	1,070	53	
	2	2	間伐材利用の促進事業	539	502	37	
	計		2 件	1,662	1,572	90	
千曲市	1	1	千曲市松くい虫被害防除対策事業	385	385	0	
	2	2	市が管理する公園等における木製ベンチの導入	259	238	21	
	3	3	千曲市森林づくり推進支援金活用事業(協働による森林づくり事業)	100	100	0	
	4	3	千曲市森林づくり推進支援金活用事業(里山景観整備事業)	780	780	0	
	計		4 件	1,524	1,503	21	
坂城町	1	3	坂城町里山景観整備事業	432	432	0	
	2	2	坂城町森林景観整備事業	304	303	1	
	計		2 件	736	735	1	
小布施町	1	3	野生鳥獣の被害防止にかかる緩衝帯整	223	210	13	
	2	2	県産間伐材を用いたベンチの設置	203	202	1	
	3	1	松林健全化推進事業の補助対象外の松くい虫被害防除	24	23	1	
	計		3 件	450	435	15	
高山村	1	1	松くい虫被害木駆除事業	903	550	353	
	2	3	村内緑化事業	65	50	15	
	3	1	緩衝帯整備事業	313	179	134	
	計		3 件	1,281	779	502	
信濃町	1	2	「フォレストスタイルしなの」伐採、植樹体験事業(町有木材の活用促進)	778	683	95	
	計		1 件	778	683	95	
飯綱町	1	1	野生鳥獣の緩衝帯整備(赤塩、倉井地区)	746	610	136	
	計		1 件	746	610	136	
小川村	1	2	ここここ保育園遊具等木質化	702	563	139	
	計		1 件	702	563	139	
合計			20 件	15,842	13,347	2,495	

注) 事業項目番号 1: 森林整備の推進 2: 間伐材利用の促進 3: 県民参加による森林づくりの促進 4: 特認事業

(別記様式第15号)

平成30年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

長野市

No.	事業項目	事業名
1	みんなの暮らしを守る森林づくり	松くい虫防除等病虫害防除事業
事業費 2,711,991円 (うち支援金: 2,667,000円)		

事業目的

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

松くい虫被害量は依然として多く、松林健全化推進事業等では対応しきれていないうえ、市内に広く散在するその他松林について既存の対策事業だけでは賄われていない状況である。

(2) 本事業の目的

駆除残の被害木処理を行うことで被害拡大を防止する。

事業内容

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 市内一円

(2) 対象者 市内松林所有者

(3) 実施方法 松くい虫被害木駆除(伐倒、薬剤処理等)

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画(平成30～34年度)

松くい虫被害木駆除(伐倒、薬剤処理) 900 m³

②平成30年度実績

松くい虫被害木駆除(伐倒、薬剤処理) 64.44 m³



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

当年度内に被害木を処理することによって、次年度の被害拡大を防止できる。

(2) 継続性

松くい虫による被害が軽減されるよう継続して被害木駆除を行い、被害の拡大防止を図る。

(3) 普及性

地道に松くい虫被害木駆除を進めていく中で、松くい被害が早期に終息へ向かうよう努める。被害木駆除を実施することで、松くい虫被害対策のPRを地域住民に対し行うことができ、緑豊かで健全な森林を広めることができる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

森林づくり推進支援金で実施する被害木駆除では駆除残の処理を行うことができ、被害の拡大防止を図れている。

(2) 課題

市内に広く散在するその他松林において松くい虫被害木駆除を進めていく中で、松くい被害の拡大に被害木処理が追いついていない。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

既存の対策事業で賄えない駆除残の被害木処理を引き続き実施し、被害の拡大防止を図る。

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

(別記様式第15号)

平成30年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

長野市

No.	事業項目	事業名
2	森林を支える豊かな地域づくり	緩衝帯整備事業
事業費 3,675,433円 (うち支援金: 3,500,000円) 〈市単独を含む全体事業費8,136,251円〉		

事業目的

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

中山間地域の高齢化や森林活用の減少により、集落や農地と森林の境に人の整備が入らなくなり、野生鳥獣の出没が頻発している。野生鳥獣との緊張感を保つためには、森林整備を実施し、よりよい森林育成をするとともに、人間と野生鳥獣の棲み分けを図っていくことが重要である。

(2) 本事業の目的

手入れの遅れている里山エリアで間伐等(緩衝帯)の森林整備を進めることにより、本市において増加している野生鳥獣の農業被害、人身被害を防止する。

事業内容

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 市内一円

(2) 対象者 里山に隣接する地域等の住民

(3) 実施方法 市内の集落・農地周辺の森林、耕作放棄地(林地化した非農地)において間伐等の森林整備を行い緩衝帯として整備

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画(平成30～34年度)

平成30年度 市内19箇所 11.25ha

平成31年度 市内20箇所 12.0ha(見込)

平成32年度 市内20箇所 12.0ha(見込)

平成33年度 市内20箇所 12.0ha(見込)

平成34年度 市内20箇所 12.0ha(見込)

②平成30年度実績

市内18箇所、5.22ha



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

集落周辺に存在する身近な里山を、緩衝帯機能を持った森林として間伐等の整備することにより、野生鳥獣の出没と被害を抑制する。また、地域住民の森林に対する関心を高めるとともに、維持管理作業を行いながら地域で取組む里山整備の推進に結びつけていく。

(2) 継続性

事業実施後の緩衝帯は、長野市緩衝帯維持管理支援事業補助金を活用するなど、地域住民の手により、緩衝帯機能の維持が図られている。緩衝帯整備による野生鳥獣に出没抑制効果を実感し、地域住民自らが森林整備を実施するなど効果が表れてきている。

(3) 普及性

緩衝帯整備を実施した地域だけでなく、周辺の地域でも野生鳥獣の出没・目撃が減少するなどの好影響が出てきている。周辺地域でも、緩衝帯整備に対する要望が増加してきており、事業効果に期待が寄せられている。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

野生鳥獣による農作物等の被害が発生している地域で、2.65haの緩衝帯整備を行い、農地・集落周辺の里山環境整備によって、クマ、イノシシ等野生鳥獣の出没件数が減り、農作物被害が減少している傾向にある。平成31年度も、電気柵との併用を推進しつつ、緩衝帯(里山)整備事業実施の地域要望に応えるべく事業を継続していく。

(2) 課題

里山環境整備により、事業実施地域での出没件数及び農作物被害は減少傾向にあるが、未整備地域では何ら変化はない。また、野生鳥獣の根本的な個体数調整も必要ではないかと考える。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

平成30年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

長野市

No.	事業項目	事業名
3	森林を支える豊かな地域づくり	広葉樹林造成調査研究事業
事業費 1,576,800円 (うち支援金: 300,000円)		

事業目的

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

市内の人工林(スギ・カラマツ)は成熟しつつあり、伐採の時期を迎えているものの、木材価格の低迷により伐採後の再造林費が捻出できない状況である。

(2) 本事業の目的

天然の力を活用し、公益的機能が高い広葉樹林を育てることができるようにする。

事業内容

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 門沢モデル林及び上ヶ屋モデル林 約2.7ha

(2) 対象者 市内森林所有者

(3) 実施方法

- ・市営林を皆伐し、広葉樹林化へのモデル林を設置。
- ・研究機関と連携し、広葉樹林を造成するための調査研究を行う

(4) 事業目標及び当年度事業量

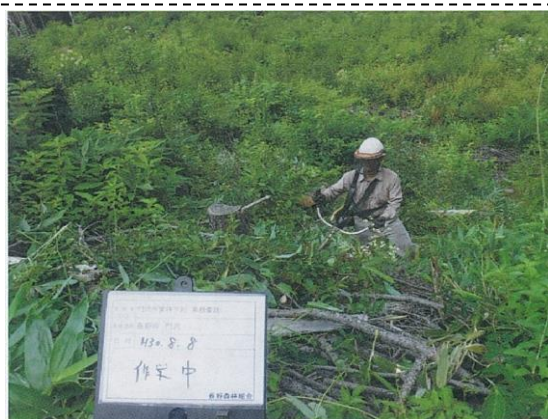
①全体計画(平成30～34年度)

・モデル林4調査箇所を設置し、皆伐後の保育や更新の継続した調査の実施

②平成30年度実績(門沢・上ヶ屋及び信更町田野口調査区約2.97ha)

・造成調査業務委託—更新樹種を検討するための基礎調査、木本類等の整理特徴等のまとめ

- ・保育作業 —モデル林内の地ごしらえ、植栽下刈り等
- ・研究事業PR —木製案内看板設置、市民参加イベントの開催



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

伐採の時期を迎えている森林が放置されているため、伐採後の天然力を活用した森林造成の方策を早急に確立する

(2) 継続性

市営林モデル地で確立した天然更新手法を、私有林所有者へ提案し拡大する

(3) 普及性

自然が相手であり、事業効果をはっきりと現れるまでには時間がかかるものであると思われるが、「森づくりワークショップ in ながの」等の市民参加型のイベントを通じ、事業PRと事業で目指しているものの理解を深めてもらう。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

平成30年度は今後検討していくうえでの基礎的調査を行い、調査区内の木本類等の整理・特徴が正確に調査されていた。

(2) 課題

この先も引き続き調査を実施していくものであり、更新樹種選定まではしばらく時間がかかる。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

更新判定を行う平成35年まで調査を引き続き実施していく。

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

平成 30 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

須坂市

No.	事業項目	事業名
1	みんなの暮らしを守る 森林づくり	病虫害防除の取組み
事業費 1,123,200 円 (うち支援金: 1,070,000 円)		

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

- ・森林病虫害防除事業により対策はしているが、守るべき松林以外の森林は対象外のため対策を実施できない。これを放置すると市内全体に支障がでる。

(2) 本事業の目的

- ・松くい虫対策事業対象地以外で防除対策を行なう枯損木処理を行なうことにより、公園等の景観形成の整備を図る。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 市内全域 (居住地域周辺を主体に実施)

(2) 対象者 地域住民及び松林所有者

(3) 実施方法

- ・松林健全化推進事業の補助対象外の松くい虫被害防除等病虫害防除の取組み
- ・公園等景観上重要な地域での枯損木の処理

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (平成 30～34 年度)

- ・枯損木の処理 40 本程度/年 × 5 年間

②平成 30 年度実績

- ・枯損木の処理 31 本

民家隣接地の被害木処理



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

- ・森林病害虫による被害のまん延防止。
- ・景観の維持

(2) 継続性

- ・森林病害虫防除対策を中止すると、被害が急激に拡大する恐れがあり、継続することが重要。本対策は今後も毎年引続き実施していく。

(3) 普及性

- ・市民や県民が多く集まり、憩いの場となっている臥竜山（公園）を主体に実施することにより、県民等へのPR効果が高い。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

31本の枯損木を処理することができ、松くい虫被害のまん延防止及び公園等の景観の維持を図る事ができた。

(2) 課題

引続き松くい虫対策事業対象地以外で防除対策を行なう枯損木処理を行なうことにより、被害拡大防止と公園等の景観形成の整備を図る必要がある。

(3) 今後の取組方向

- 事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

- 事業内容を見直して継続する

(見直しの内容及び今後の事業実施見込について記載)

- 事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

平成 30 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

須坂市

No.	事業項目	事業名
2	木を活かした力強い産業づくり	間伐材利用の促進事業
事業費 539,784 円 (うち支援金: 502,000 円)		

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

- ・当市の森林は、50 年生以上の木材利用可能な森林が増加しており地域での間伐等の森林整備の推進と間伐材等の木材利用推進が大きな課題である。

(2) 本事業の目的

- ・搬出間伐の促進と利用者への間伐材の活用方法を広く知らしめるとともに、森林税の有効活用を利用者へアピールする。(間伐材の有効利用)

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 市内(森林公園、公共施設等)

(2) 対象者 市民一般

(3) 実施方法

①森林散策路保全の丸太柵の設置。

②公共施設へ間伐材ベンチの設置。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (平成 30～34 年度)

- ・丸太柵 30m/年 × 5 年
- ・間伐材ベンチ設置 2ヶ所/年 × 5 年

②平成 30 年度実績

- ・丸太柵 22m
- ・間伐材ベンチ設置 3ヶ所

臥龍公園丸太柵



河東線記念公園ベンチ設置



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

- ① 県産材を活用した丸太柵木と解説パネルを併せて設置することで、県産材の有効活用と普及啓発を図ることができる。
- ② 間伐材ベンチと解説パネルを併せて設置することで、県産材の有効活用と普及啓発を図ることができる。

(2) 継続性

- ・ベンチ等を継続的に設置し、間伐材の利用事例を直接かつ継続的に市民にPRすることができる。

(3) 普及性

- ・市民が直接目にして、利用することができるため県産材利用拡大に向けた普及効果が期待できる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

県産材を活用した丸太柵木及びベンチを設置することで、地域住民等へ県産材の有効活用と普及啓発を図ることができた。

(2) 課題

当市の森林は、50年生以上の森林が増加しており地域での間伐等の森林整備の推進と間伐材等の木材利用推進が大きな課題であり、間伐材等の地域材の活用方法を周知し利用拡大に繋げる事が課題。

(3) 今後の取組方向

- 事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

- 事業内容を見直して継続する

(見直しの内容及び今後の事業実施見込について記載)

- 事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

平成 30 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

千曲市

No.	事業項目	事業名
1	「みんなの暮らしを守る森林づくり」に関する事業	千曲市松くい虫被害防除対策事業
事業費		385,147円 (うち支援金: 385,000円)

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

平成 28 年度から薬剤空中散布を見合わせており、伐倒駆除を中心に対策を行なっているが、本来は森林所有者の責任において対策を行なうべきことであるため、なかなか対策が進まないのが課題である。

(2) 本事業の目的

個人等が行う松くい虫被害伐倒駆除、地上散布、樹幹注入の経費の一部を行うことで、市内松林の健全化を推進し、山地災害の防止や景観の維持等を図る。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 千曲市一円

(2) 対象者 松林所有者等

(3) 実施方法

市内の個人、事業者が行う伐倒駆除、地上散布、樹幹注入について経費の補助を行う。なお、それぞれ、100,000 円、10,000 円、20,000 円を上限とする。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (平成 30~34 年度)

50 万円×5 年=250 万円

②平成 30 年度実績

385,147 円 ※所有者等からの実績報告に基づく



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

市内松林の健全化を推進し、山地災害の防止や景観の維持等を図ることができた。

(2) 継続性

補助金額に上限があり数に限りがあるものの、個人が所有する松の防除対策につながった。

(3) 普及性

枯損木の処理も対象となるため景観の向上につながった。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

事業が始まり2年目の今年は昨年より1件多い5件の申請があった。個人で松くい虫防除対策を行う場合、費用が大きな負担となるが、補助を行うことで軽減を図ることができた。

(2) 課題

地上散布や樹幹注入は実施時期が限られることから早期の制度周知が必要である。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

・ 伐倒駆除 4件 ・ 樹幹注入 1件

・ 地上散布 1件

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

平成 30 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

千曲市

No.	事業項目	事業名
2	「木を活かした力強い産業づくり」に関する事業	市が管理する公園等における木製ベンチの導入
事業費		259,200円 (うち支援金: 238,000円)

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

市有林の間伐を進める時期となっているが、費用が高むことと木材価格の低迷により計画どおり進まないのが課題である。

(2) 本事業の目的

県産材を利用した木製ベンチを市営施設に設置し、市民等に対して県産材の普及・啓発を行う。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 市内公園等

(2) 対象者 地域住民

(3) 実施方法

間伐材を利用したベンチを作成し市内の公園等施設に設置をする。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (平成 30～34 年度)

4 基×5 年=20 基

②平成 30 年度実績

12 基 (松くい虫被害木を活用)



くつろぎベンチ

このベンチは長野県森林づくり県民税(森林税)活用事業により松くい虫被害材を使用し製作しました。材料は千曲市桑原の林道佐野山線沿いのアカマツで、松くい虫により枯れた木を製材しベンチにしました。

くつろぎベンチで、善光寺平や棚田の風景を見ながら、どうぞゆっくりおくつろぎ下さい。

事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

松くい虫被害木の有効活用を図ることができ、解説パネルを併せて設置することで、被害木の有効活用に寄与することができた。

(2) 継続性

市内の施設に計画的に設置できた。

(3) 普及性

設置したベンチが被害木を利用したものと分かるよう看板を設置しPRを行なった。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

姨捨棚田を訪れる観光客等に、自慢の眺望をゆっくりと楽しんでもらうと共に、散策時の休憩場として松くい虫の被害木を利用した木製ベンチ『くつろぎベンチ』を10基設置した。また、市内の循環バスの停留所に2基設置した。

(2) 課題

- ・搬出がし易い場所を選定しなければ費用が高んでしまう。
- ・製材に適した被害木の選木が必要である。

(3) 今後の取組方向

- 事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

松くい虫被害木を活用したベンチ 10基

- 事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

- 事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

平成 30 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

千曲市

No.	事業項目	事業名
3	「森林を支える豊かな地域づくり」に関する事業	千曲市森林づくり推進支援金活用事業（協働による森林づくり事業）
事業費		100,000円（うち支援金：100,000円）

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

地域の高齢化や若者の関心の低さに関していると思われるが、手入れが行き届いておらず、森林の荒廃化が進んでいる。

(2) 本事業の目的

市民参加による森林整備活動を通じて広く森林の多面的役割や森林整備の必要性に対する啓発を図り、理解を深める。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 市内一円

(2) 対象者 林業研究グループ、NPO法人等による市民参加の森林体験活動に取り組む団体

(3) 実施方法

林業研究グループ、NPO法人等による市民参加の森林体験活動について、必要物資・活動経費の補助を行う。なお、1 団体あたりの補助金額は 100,000 円を上限とする。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画（平成 30～34 年度）

30 万円×5 年=150 万円

②平成 30 年度実績

10 万円



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

林業関係団体の育成と、森林に関する市民への啓発を図ることができた。

(2) 継続性

1 団体は近年毎年事業を行っており継続性がある。

(3) 普及性

市民の目に届く場所であるため、本事業に関して興味を持ってもらえた。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

1 団体が実施し、雑木の除間伐、大人と子供がペアになり下草刈り作業を行った。また、県林務課から提供いただいた「保安林のしおり」を子供達に配布し森林づくりの大切さや役割について説明した。

(2) 課題

3 団体から申請があったが、1 団体は施業内容が対象要件に合致しなかった。もう1 団体は雨天により実施できなかった。

応募の時点で事業内容の精査を行う必要がある。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

2 団体が引き続き事業を実施する見込み。

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

平成 30 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

千曲市

No.	事業項目	事業名
4	「森林を支える豊かな地域づくり」に関する事業	千曲市森林づくり推進支援金活用事業（里山景観整備事業）
事業費		780,000円（うち支援金：780,000円）

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

地域の高齢化や若者の関心の低さが関していると思われるが、手入れが行き届いておらず、森林の荒廃化が進んでいる。

(2) 本事業の目的

里山の景観・森林機能向上や野生鳥獣被害対策を目的として、森林造成事業で補助対象とならない里山の竹林整備・藪払い等の森林整備について補助を行う。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 市内一円

(2) 対象者 森林整備に取り組む団体等

(3) 実施方法

竹林整備・藪払い等の作業について、労務費（1人1日あたり 6,000 円）の補助を行う。なお、1 団体あたりの補助金額は 60,000 円を上限とする。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画（平成 30～34 年度）

66 万円×5 年＝330 万円

②平成 30 年度実績

78 万円



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

里山景観の向上・野生鳥獣被害の軽減が図られるとともに、市民自ら作業することにより、森林への関心を高めることができた。

(2) 継続性

事業を実施する山林のほとんどが1年では整備できない為、毎年市民の方に作業してもらうことにより市民の団結や森林への関心が高まった。

(3) 普及性

実施場所の中には市民の目に届く場所もあるため、本事業に関して興味を持ってもらえた。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

13団体が施業を行い、延べ人数439人により、合計39.8haの里山の整備が行われた。

(2) 課題

施業内容が対象要件に合致しなかったことから、応募の時点で事業内容の精査を行う必要がある。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

13団体が引き続き事業を実施する見込み。

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

平成 30 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

坂城町

No.	事業項目	事業名
1	みんなの暮らしを守る 森林づくり	坂城町里山景観整備事業
事業費 432,000円 (うち支援金: 432,000円)		

事業目的

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

- ・松くい虫による被害が増加している。
- ・里山における広葉樹等の整理伐採が急務となっている

(2) 本事業の目的

- ・伐倒駆除を行い、被害蔓延を防ぎ、地域の森林づくりを推進する。
- ・整理伐採が必要な広葉樹等を伐採し、森林の健全な保全管理を行う。伐採した木材はキノコ原木材として有効活用する。

事業内容

(1) 実施場所 坂城町大字上平、大字坂城

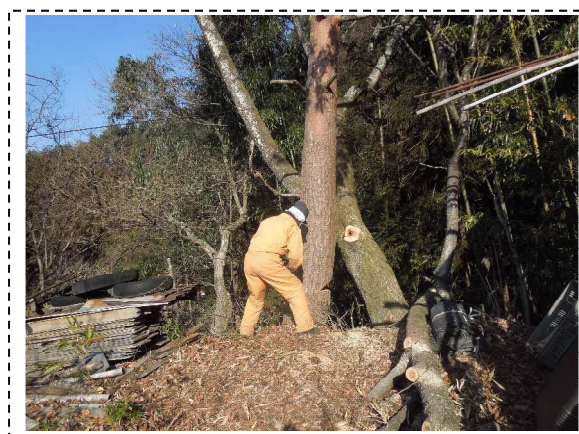
(2) 対象者 地域住民

- (3) 実施方法
- ・地域要望に応じた松くい虫の被害木の伐倒駆除を行う。
 - ・町内の森林で整理伐採が必要とされる広葉樹等を適宜伐採する。

(4) 事業目標及び当年度事業量

- | | | |
|---------------------|------------|-------------------------|
| ①全体計画 (平成 30~34 年度) | ・被害木 100 本 | ・広葉樹等 50 m ³ |
| ②平成 30 年度実績 | ・被害木 28 本 | ・広葉樹等 10 m ² |

実施状況



事業効果

(1) 事業実施の効果

- ・松くい虫の被害木の伐倒駆除を行うことで被害蔓延を防ぎ森林の健全化を図り、土砂災害を防ぎ、水源涵養機能の増加に効果的。
- ・伐採した木材をキノコ原木材として活用することで、循環型の森林資源が可能となる。

(2) 継続性

- ・地域住民が参加することで自らの里山を守る自覚が促され、事業の継続性と発展性が期待できる。

(3) 普及性

- ・松林の健全化により、景観の保全と、松茸の産出で事業の効果が県民に対し視覚的に確認できる。
- ・地域の里山で伐採された原木を利用したきのこを販売することで県民に対し効果をアピールする。

事業の検証及び評価

(1) 目標に対する成果の状況

- ・5年間で100本の被害木伐倒の計画に対し、30年度は28本の実績があった。地域住民の参加による景観整備が進んでいる。

(2) 課題

- ・被害木が予想以上に範囲が拡大していることから、さらなる地域住民の参加が望まれる。

(3) 今後の取組方向

- 事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

- ・5年間で100本の被害木伐倒の計画に対し、30年度は28本の実績があり、計画どおり年間20本台の被害木伐倒が見込める。

- 事業内容を見直して継続する

(見直しの内容及び今後の事業実施見込について記載)

- 事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

(別記様式第 15 号)

平成 30 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

坂城町

No.	事業項目	事業名
2	みんなの暮らしを守る 森林づくり	坂城町森林景観整備事業
事業費 304,000円 (うち支援金: 303,000円)		

事業目的

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

地域の公園となっている森林において、伐倒・くん蒸処理後の松くい虫被害木の枯損木が放置されており、ウォーキングする住民の安全への不安や景観の悪化を招いている。

(2) 本事業の目的

枯損木を搬出し、チップ化することで適正な処理を行うことで、森林の景観保全、遊歩道の安全確保を図る。

事業内容

(1) 実施場所 坂城町大字網掛ほか

(2) 対象者 坂城町

(3) 実施方法 現場から松くい虫被害木の伐倒駆除・くん蒸処理後の枯損木を搬出し工場でチップ化する。

(4) 事業目標及び当年度事業量

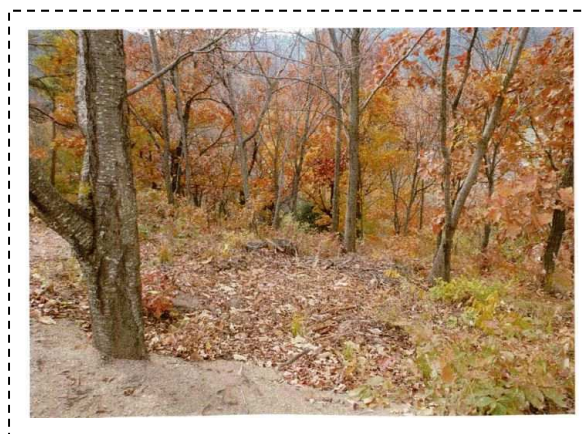
①全体計画 (平成 30~34 年度) 搬出チップ(破砕)処理 $5 \text{ m}^3/\text{年} \times 5 \text{ 年} = 25 \text{ m}^3$

②平成 30 年度実績 搬出チップ(破砕)処理 6 m^3

実施前



搬出処理後



事業効果

(1) 事業実施の効果

森林の景観保全と林内の安全確保とともに、枯損木のチップ化で森林資源を循環的に活用することが可能となる。

(2) 継続性

地元の森林整備を地元業者に委託することで、関心も高まり、事業の継続性と発展性が期待できる。

(3) 普及性

枯損木(駆除木)を撤去することで森林景観を保全する。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

- ・ 5年間で 25 m³ (5 m³/年×5ヶ年)の駆除木の処理計画に対し、30年度は計画どおり 6 m³の処理を実績することができ、遊歩道の安全確保及び景観保全が図れた。

(2) 課題

- ・ 被害の範囲が予想以上に拡大していることから、町内の景観保全を図るため更なる被害防除対策の強化が必要。

(3) 今後の取組方向

- 事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

- ・ 30年度は計画を超える 6 m³の処理を実施したが、今後も引続き実施して行く。

- 事業内容を見直して継続する

(見直しの内容及び今後の事業実施見込について記載)

- 事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

(別記様式第 15 号)

平成 30 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

小布施町

No.	事業項目	事業名
1	森林を支える豊かな地域づくり	野生鳥獣の緩衝帯整備
事業費		222,553 円 (うち支援金: 210,000円)

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

高山村や中野市との境にある雁田山は、山麓が集落等と隣接しているため、地域の人々の生活に深くとけこんでいる。しかし、近年、林業の衰退及び急傾斜地であることから間伐などの森林整備がほとんど行われなくなってしまい集落等に野生鳥獣が出没することがある。

(2) 本事業の目的

雁田山の健全な森林環境を保全するとともに、野生鳥獣と農村集落の共存・共栄のため、緩衝帯を設けるとともに里山を整備することを目的とする。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所

小布施町雁田地区

(2) 対象者

地域住民、農協、行政、一般ボランティア

(3) 実施方法

鎌や太枝切鋏、ビーバー等での下草刈り及び高枝のこぎりでの枝払いを実施する。また、実施が困難な箇所については一部を委託して行った。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (平成 30～34 年度)

緩衝帯整備 距離約 1,500m (各年度 300m) 幅 15m

②平成 30 年度実績

緩衝帯整備 距離約 400m 幅 15m



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施による効果

野生鳥獣が身を隠せる下草を伐採することで、集落等に出没しづらくなる。森林整備を近隣住民自らが行うことにより、森林に対する意識が向上する。

(2) 継続性

近隣住民による緩衝帯整備は、平成16年度から継続して毎年実施している。下草が3～5年程度で成長してしまうため、同程度のサイクルで事業箇所を変更し実施していく。

(3) 普及性

雁田山麓には遊歩道も整備されているが、ウォーキングやランニング等で利用する住民も多い。また、岩松院や浄光寺といった町内有数の観光スポットもあり、観光客も多く訪れている。緩衝帯整備により下草を刈ることで、森林景観も良くなり、広く事業効果を普及することができる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

住民ボランティアの協力も得て本事業を行った。地元自治会を中心に約121人の参加があった。

(2) 課題

- ①作業時期について、近年、ぶどう収穫後の11月第2日曜日になっているが、農作物の被害防止の観点からより効果を得るためには、春から夏にかけてなど早期に実施する必要があるのではないかと。
- ②今回、作業にあまり時間がかからなかった。この程度の作業時間(範囲)であれば、より早期に実施することも可能ではないかと。地元自治会と協議する必要があると思われる。
- ③今回の作業場所には日陰を作るような樹木がないため、すぐに下草が生えてしまう。今後、植樹等を検討する必要がある箇所でないかと思われる。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

年々、地域住民の山林に対する意識が向上してきていると考えられる。防護柵による侵入防止対策と組み合わせることにより、有害鳥獣による農作物の被害も軽減されてきている。今後も、継続して里山を地域住民と行政が一体となり整備していく。

事業内容を見直して継続する

(見直しの内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

平成 30 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

小布施町

No.	事業項目	事業名
2	木を活かした力強い産業づくり	県産間伐材を用いたベンチの設置
事業費		202,500 円 (うち支援金: 202,000円)

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

小布施町は県内一森林面積が狭い市町村であり、林業従事者もとても少ないため林業及び県産間伐材の利用に対する意識を醸成しづらい環境にある。

(2) 本事業の目的

県産間伐材を使用している旨を刻印したベンチを設置することで、森林税や間伐材など身近な林業への関心を高める。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所

小布施町内・おぶせミュージアム中島千波館、六次産業センター

(2) 対象者

町民及び観光客

(3) 実施方法

県産間伐材をベンチに加工できる事業者に発注。町内の観光スポットであるおぶせミュージアム中島千波館及び六次産業センターに設置し、県産材のPRをする。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画(平成 30~34 年度)

県産間伐材使用ベンチ 25 基(各年度 5 基)設置

②平成 30 年度実績

県産間伐材使用ベンチ 5 基 設置



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施による効果

県産間伐材利用の促進及び地元林業の担い手の育成。県産間伐材及び森林税活用のPR効果。

(2) 継続性

町内全域にある観光スポットはその数も多く、全てに設置できずにいるのが現状である。また、住民からベンチの設置を求める声が寄せられていることもあり、効果をより普及拡大させるためには、未だ設置数が不足している。

(3) 普及性

小布施町の各所にある観光スポットに県産間伐材ベンチを設置することで、住民のみならず年間100万人以上訪れる観光客に対しても県産材のPRをすることができる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

当町の森林は小規模所有がほとんどで、林業で生計を立てるものがないため、森林整備の促進と併せて、いかに森林税が活用され、間伐材が利用されているか、PRすることが重要である。

(2) 課題

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

当町には観光に訪れる人も多いため、町内循環バスのバス停に木製ベンチを設置したが、今後も町の施策に合致する形で、あらゆる方策によりPRに努めていく。

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

(別記様式第 15 号)

平成 30 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

小布施町

No.	事業項目	事業名
3	みんなの暮らしを守る森林づくり	松林健全化推進事業の補助対象外の松くい虫被害防除
事業費		23,760 円 (うち支援金: 23,000 円)

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

公園や街路にある松はいわゆる国庫の補助の対象外であるが、それらの松に対してもいわゆる松くい虫の被害が発生している。

(2) 本事業の目的

国庫補助対象外の松くい虫被害木に対し、森林づくり推進支援金を活用し駆除することで、松くい虫の被害拡大を防ぐ。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所

小布施町内全域

(2) 対象者

地域住民、事業者

(3) 実施方法

事業予定地は公園等公共性が高く人の往来が多いエリアのため、集積・くん蒸することが難しい。そこで被害木を破碎処理する。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (平成 30~34 年度)

破碎処理 15.0 m³ (各年度 3.0 m³)

②平成 30 年度実績

破碎処理 0.7 m³



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施による効果

被害木を処理することにより、次年度の被害の拡大を防止する。

(2) 継続性

松くい虫による被害は、年により被害量の増減はあるものの引き続き発生している。さらなる被害拡大を防ぐため、継続して伐倒駆除を行っていく。

(3) 普及性

松くい虫の被害木は、木々の緑が映える時期にも関わらず枯死し葉が赤色に変色してしまう。枯死した松を伐倒することにより、一目で景観も良くなり、広く町民に事業効果を示すことができる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

松くい虫の被害が発生し、被害地区自治会長から駆除要望が寄せられた千両公会堂での被害に対し、約 0.7 m³の伐倒駆除を実施した。

(2) 課題

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

今後も被害の拡大を防止するため事業を継続して実施する。

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

平成 30 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

高山村

No.	事業項目	事業名
1	みんなの暮らしを守る森林づくり	松くい虫被害木駆除事業
事業費 902,880円 (うち支援金: 550,000円)		

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

松くい虫被害が増加し、森林の環境に悪影響を与えていることから、森林の健全な育成や森林景観を保全するため、松くい虫被害防除を行う必要がある。

(2) 本事業の目的

松林健全化推進事業及び保全松林健全化整備事業の対象とならない森林以外の箇所の松くい虫被害木を駆除し、景観の向上を図る。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 森林以外(公園等)の松林

(2) 対象者 松林所有者

(3) 実施方法 森林以外の松くい虫被害木の伐倒及び破碎処理を行った。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画(平成 30~34 年度) 平成 30 年度~34 年度 $15 \text{ m}^3 \times 5 \text{ 年} = 75 \text{ m}^3$

②平成 30 年度実績 22 m^3



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

松くい虫被害蔓延の防止。森林の健全化。

(2) 継続性

松くい虫被害蔓延の防止。森林の健全化。

(3) 普及性

目立つ被害木の駆除により良好な景観が形成でき、今後の被害拡大防止に繋がっている。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

森林以外の松くい虫被害木の伐倒及び破碎処理ができ、景観の向上に繋がっている。

実施材積 特殊破碎 22 m³ 実施本数 30 本

(2) 課題

全体計画(平成31年度～34年度)では、15 m³を計画しているが、今後、森林以外の箇所にも松くい虫被害木が蔓延する恐れがある。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

森林以外の箇所にも松くい虫被害木が蔓延する恐れがあることから、今後25 m³程の材積を見込む必要がある。

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

平成 30 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

高山村

No.	事業項目	事業名
2	森林を支える豊かな地域づくり	村内緑化事業
事業費 65,275円 (うち支援金: 50,000円)		

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

村民の憩いの場や子どもたちの遊び場として区集会場や公園緑地が必要であり、区集会場や公園緑地に緑化木を植栽し、自然環境と人との豊かなふれあいの場を図る必要がある。

(2) 本事業の目的

景観の維持向上を図るため、各地区区長へ希望苗木を募り、村民自らが行う緑化活動の促進を図る。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 区集会場敷地及び公園緑地等

(2) 対象者 村民

(3) 実施方法 各地区区長へ希望苗木を募り、集会場等の敷地内に緑化木を植え緑化活動を行った。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画(平成 30～34 年度) 平成 30 年度 大山桜、ドウダンツツジ等の苗木 92 本を配布。平成 31 年度～34 年度 ドウダンツツジ等の苗木 100 本を配布。

②平成 30 年度実績 大山桜、ドウダンツツジ等の苗木 98 本を配布

事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

村内の緑化。住民の山林に対する意識の向上。森林税のPR

(2) 継続性

景観の維持向上及び緑化推進が図られる。

緑化活動が進み、森林等への関心が高まっている。

行政地区単位で、緑化推進活動への関心が高まっている。

(3) 普及性

区集会場敷地及び公園緑地等に、緑化木が増えつつあり、景観の維持に繋がっている。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

区集会場敷地及び公園緑地等に、緑化木が増えつつあり、景観の維持に繋がっている。

実施自治区 7区

緑化木苗木 大山桜9本・ドウダンツツジ30本・ハナミズキ2本・アジサイ12本
サツキ5本・クロモジ20本・ガクアジサイ20本 合計98本

(2) 課題

全自治区26区がこぞって苗木を植えることで、緑化活動が盛んになり、景観の向上及び緑化推進に繋がるが、毎年10区程の希望苗木の要望しかないことから、自治区全体で気運を盛り上げる必要がある。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

毎年、緑化木を植えている区及びそれ以外の区に対して、緑化活動の大切さを周知する。

事業費 76千円

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

平成 30 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

高山村

No.	事業項目	事業名
3	森林を支える豊かな地域づくり	緩衝帯整備事業
事業費 313,200円 (うち支援金: 179,000円)		

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

有害鳥獣による農作物被害が増加しており、対策として有害鳥獣の捕獲や電気柵を設置し防除対策の強化を図っている。村内の恒久電気柵の距離は 27,496mあり、地域で電気柵の維持管理を行っている状況だが、高齢化の進行や人口減少に伴い、電気柵の維持管理作業が年々厳しくなっている状況にある。

(2) 本事業の目的

有害獣の被害防止にかかる緩衝帯整備を実施する。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 高山村大字高井字鞍掛 6496-1・水沢 6498-1

(2) 対象者 周辺農地の耕作者

(3) 実施方法 電柵進入路の刈払いを行った。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (平成 30～34 年度) 平成 30 年度 長さ 156m×幅 5 m=780 m²

平成 31 年度～34 年度 長さ 560m×幅 5 m=2,800 m²

②平成 30 年度実績 長さ 244m×幅 5 m=1,220 m²



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

農作物被害の軽減及び人身被害の防止が図られた。

(2) 継続性

持続的に緩衝帯整備を実施することで、農作物被害の軽減及び人身被害の防止が図られた。

(3) 普及性

草木や小径木、不要な雑木を伐採することで見通しが良くなり、野生獣の潜み場をなくし、農地への出没や侵入を抑止、農作物被害の軽減が期待できる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

草木や小径木、不要な雑木を伐採したことで見通しが良くなり、野生獣の被害対策に繋がっている。

実施面積 長さ 244m×幅 5 m = 1,220 m²

(2) 課題

全体計画(平成31年度～34年度)では、年間で長さ 140m×幅 5 m = 700 m²を計画しているが、今後、立地条件の悪い箇所に電気柵が設置してあることから、不要な雑木等の伐採に多額な経費がかかる恐れがある。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

今後は平成30年度に実施した箇所から緩衝帯整備を実施する予定であるが、年間で長さ 140m×幅 5 m = 700 m²を計画しているが、立地条件が悪い箇所では 700 m²できない恐れがある。

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

平成 30 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

信濃町

No.	事業項目	事業名
1	木を活かした 力強い産業づくり	「フォレストスタイルしなの」伐採、植樹体験事業
事業費 777,600 円		(うち支援金: 683,000 円)

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

当町の森林率は約 72%で民有林と国有林が半々の状況となっている。民有林面積は、約 5 千 ha で、内スギ、カラマツ人工林が 2.3 千 ha で、その多くが利用期を向かえており、これらの利用推進が資源の循環及び、森林整備の推進に向けて重要な課題となっている。

(2) 本事業の目的

木材需要の中核として一般住宅での活用が重要であるが、近年の住宅建築では外材や非木質系資材へ代替により、国産材(町産材)の需要低下とともに林業関連産業が衰退している。

そこで「フォレストスタイルしなの」により、町内での住宅建築予定者に伐採、植樹体験を行い、地域材の良さや森林整備・植栽の重要性を深めてもらい地域材利用の促進や、町産材の活用することによる林業の振興と地域経済の活性化を図る。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 信濃町・町民の森

(2) 対象者 「フォレストスタイルしなの」により町内での住宅新築予定者

(3) 実施方法

住宅新築予定者を対象に伐採体験及び植樹体験を森林組合へ委託し実施する。(伐採体験の伐採木は新築時に活用してもらう)

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画(平成 30~34 年度)

伐採体験及び植樹体験 10 回(2 回/年)

②平成 30 年度実績

伐採体験及び植樹体験 2 回(伐採 2 回、植樹 2 回)



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施による効果

地域材の良さや森林整備・植栽の重要性を深めてもらうことができるとともに、地域材利用の促進や、町産材を住宅建材として利用することで林業の振興と地域内消費及び林業、製材業、住宅関連による地域内循環効果により地域経済の活性化が期待できる。

(2) 継続性

継続し、実施することにより地域材の良さや森林整備・植栽の重要性の理解者が増加するとともに、地域材を利用した住宅が増加し、木のぬくもりや地域材の良さを理解していただき、林業振興及び地域木材利用の拡大が期待される。

(3) 普及性

直接町民に係わるものであり、住民全体への波及及び、町外からの移住希望者への波及効果も期待される。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

森を循環する機能として重要な伐採、植樹体験を自ら体験することで、森林整備・植栽の重要性を肌で感じてもらうことができた。また、伐採木を新築住宅へ活用することで、地域材の良さを感じてもらうとともに、町産材活用のきっかけづくりとなった。

(2) 課題

参加者対象者は伐採木を新築住宅へ活用する者としているため、対象者が限定的となっている。対象者を広げ大勢の方の参加を図ることも重要であるが、伐採木の確実な活用も重要であり今後参加者の拡大に向けた対応が課題となっている。

(3) 今後の取組方向

- 事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

伐採体験及び植樹体験 年2回(伐採2回、植樹2回)

- 事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

- 事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

(別記様式第 15 号)

平成 30 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

飯綱町

No.	事業項目	事業名
1	森林を支える豊かな地域づくり	野生鳥獣の緩衝帯整備
事業費		746,496 円 (うち支援金: 610,000 円)

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

農地に近い里山で野生鳥獣の出没が多く、農作物被害が多発しており、課題となっている。

(2) 本事業の目的

農作物被害を防ぐため、緩衝帯整備(間伐・藪払い)を行う。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所: 赤塩地区・倉井地区

(2) 対象者: 飯綱町(地区住民及び地区耕作者を主体)

(3) 実施方法: 町が業者に依頼し緩衝帯整備(間伐・藪刈り)を行う。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画(平成 30~34 年度) 町内 5ha(1ha×5 年)

②平成 30 年度計画 赤塩地区 4,000 m²

倉井地区 6,000 m²

計 10,000 m²



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施による効果

(事業目的に対応する効果について記載)

集落や農地に近い里山の目に見える部分の緩衝帯整備(間伐・藪刈り)を実施することで、野生鳥獣が出没しにくい環境をつくり、被害防止に繋げる。

(2) 継続性

(事業又は事業効果の継続性、発展性について記載)

農作物に対する野生鳥獣被害は、森林との隣接地を主体に飯綱町全体に及んでおり、継続し実施する必要性がある。

(3) 普及性

(事業の効果が県民等の目に見える形で発現されるものであることについて記載)

農作物に対する野生鳥獣被害対策は、住民にとって大きな課題であり、集落周辺の見える場所で実施することにより住民へのPR効果は高い。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

事業実施場所周辺での野生鳥獣による農作物被害の軽減に期待したい。

地域の課題となっている、野生鳥獣被害対策を住民の身近な個所で実施することはPR効果が高い。

(2) 課題

野生鳥獣との共存を含め、野生鳥獣被害対策は町内全体の課題であり、町内全体に対する引続き対策の実施が課題。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

今後とも、毎年1ha程度継続して実施していく。

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

平成 30 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

小川村

No.	事業項目	事業名
1	「木を活かした力強い産業づくり」に関する事業	にこにこ保育園 遊具等木質化事業
事業費 702,000円 (うち支援金: 563,000円)		

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

森林を地域が持続的に管理していくためには、地域の消費者が求める木材を地域で生産し活用する「地消地産」の取組を推進が必要である。

(2) 本事業の目的

感受性豊かな保育園時代に、遊具などに県産材を使うことにより、木の温もりを体験し喜びを提供することで、県産材利用の動機付けを図り、将来における県産材の利用者(将来の木の使い手)づくりに繋げる。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 : 小川村にこにこ保育園

(2) 対象者 : 保育園児・保護者

(3) 実施方法 :

県産材を利用した遊具・園児が外で使う机や椅子を製作し、園庭出入口にすのこを設置することにより、園児や保護者が木の温もりに触れ、喜びを知る。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画(平成 30~34 年度)

平成 30 年: にこにこ保育園 遊具等木質化

平成 31 年: にこにこ保育園 わんぱくの森整備

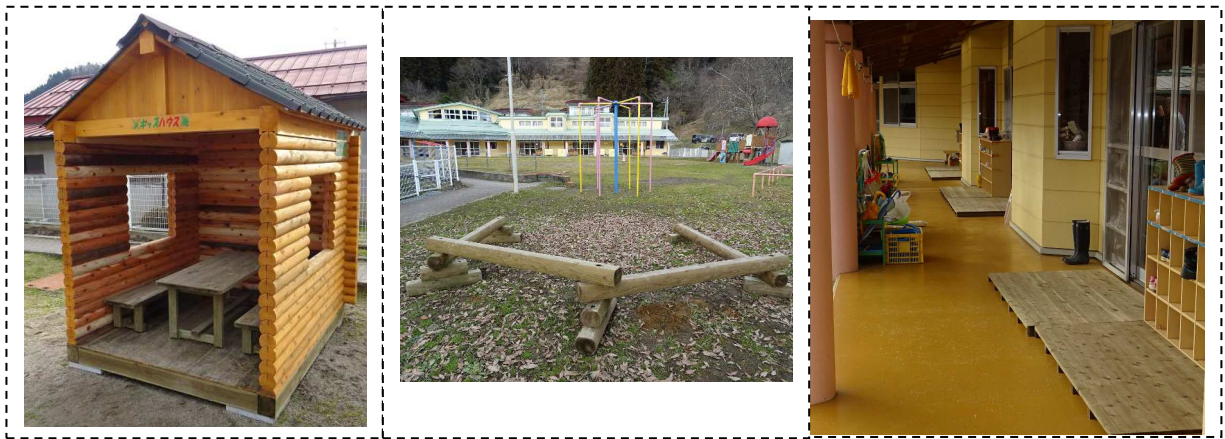
平成 32 年~34 年: 小川小学校 裏山らんど整備

②平成 30 年度実績

【製作品】

キッズハウス屋外用 1 棟、園児用 机 3 個、椅子 6 脚

丸太平均台 7.1m 1 式、すのこ 8 枚



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

間伐材利用の推進、間伐材利用の啓発、癒しの場の提供
木材製品のPR、森林税のPR

(2) 継続性

感受性豊かな保育園時代に、普段から県産材利用の遊具を使うことにより、木の温もりを体験し喜びを提供することで、県産材利用の動機付けを図り、将来における県産材の利用者(将来の木の使い手)づくりに繋げる。

(3) 普及性

幼少期に県産材を利用することにより、将来における利用者拡大に繋げる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

保育園に設置することにより、園児がキッズハウス内で遊ぶ機会が増え、テーブルと椅子も設置することにより県産材と触れ合う機会が増えた。教室から園庭に出るときにコンクリートの上で靴の履き替えをしていたが、すのこ設置により木の温もりを感じる事が出来た。

(2) 課題

アレルギー反応がある園児がおり、園児を木育に参加させることが難しく、今回は完成品の設置となったが、もっと園児と係る機会を設けることが出来ればよかった。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する (今後の事業実施見込について記載)

今後は、園児が安心して遊ぶことができるわんぱくの森の整備を実施したい。







この施設は森林税を活用
森林づくり推進支援金活用事業
使用材：長野県産杉 2018年12月設置





